

平成18年度事業報告について
(平成18年4月1日から平成19年3月31日)

概要

尾瀬の優れた自然環境の保護と適正な利用を図るため、利用者等を対象に、利用マナーの啓発、自然への理解を深める解説活動等を実施するとともに、荒廃湿原の植生復元、ビジターセンター等施設の維持管理、国立公園利用適正化、ツキノワグマ対策事業を受託、実施した。

特に「尾瀬の保護と利用のあり方検討会」を設置して、尾瀬の今後の進むべき方向を示した「尾瀬ビジョン」をとりまとめた。

また、関係機関・団体が一堂に会して尾瀬について意見交換を行う尾瀬サミット2006を開催したほか、尾瀬を含む湿原保護に関する学術研究を奨励するため、尾瀬賞を授与した。

実施事業

1 利用者啓発事業

(1) 入山者啓発事業

入山口における案内・啓発

尾瀬の環境美化や利用者のマナー向上を図るため、入山口(鳩待峠口・沼山峠口・一ノ瀬)において、尾瀬ボランティアの協力を得て入山者への案内・啓発を実施するとともに、関係機関・団体と連携してごみ持ち帰り運動を実施した。

尾瀬ボランティアの活動支援

尾瀬ボランティア(平成18年4月1日現在登録者数:368名)による入山口啓発、美化清掃活動及び植生保護作業等をコーディネートした。

また、インタープリテーション活動の充実とお話しボランティアなどの資質の向上を図るため、現地研修を含めたボランティア講座を開催した。

ア 入山口啓発活動

利用マナーや現地状況の説明、靴底の種子落とし指導、軽装者への注意喚起 等

実施時期	5/27 ~ 6/18	7/8 ~ 7/30	9/9 ~ 10/8	計
鳩待峠	73人	53人	37人	163人
沼山峠	27人	28人	18人	73人
大清水	4人	7人	2人	13人
合計	104人	88人	57人	249人

イ 至仏山東面登山道周辺植生保護

・踏み込み防止柵設置 6月24日 撤去 10月10日

ウ お話しボランティア(スポット解説活動)

実施時期	5/26 ~ 6/23	7/10 ~ 8/18	9/15 ~ 10/6	計 (19日間)
	7日間	8日間	4日間	
尾瀬ヶ原地区	10人	13人	8人	31人
尾瀬沼地区	10人	16人	6人	32人
合計	20人	29人	14人	63人

エ 横田代地区荒廃地植生復元作業

9月14日、21日

オ 2006ありがとう尾瀬清掃活動

9月24日、10月10日

カ ボランティア研修

ボランティア講座 6月27日～28日

キ その他

尾瀬での自主ボランティア活動、事務局での事務ボランティア、ツアーパンフ収集、身近な地域でのボランティア活動等

ガイド利用の普及促進

ア 尾瀬ガイドネットワーク事業

尾瀬をフィールドとするガイド事業者をネットワーク化し、ガイド利用の促進及び一定レベルの知識や技術を有するガイドの育成を図るため、技術研修会及び意見交換会を実施した。

定例会 9月5～6日 尾瀬沼山荘 8名出席

イ 尾瀬自然解説ガイド事業

尾瀬ヶ原及び尾瀬沼において、申し込みに応じ尾瀬自然解説ガイドによる自然解説ガイド事業（有料）を実施した。

・ガイド登録者数 22名

・活動実績 17回（240人をガイド）

(2) 自然解説事業

自然解説活動の実施

尾瀬山の鼻及び尾瀬沼両ビジターセンターにおいて、自然観察会やスライドショーなどを実施した。

ア 尾瀬山の鼻ビジターセンター

・自然観察会	実施回数	99回	参加者	636人
・スライドショー	実施回数	60回	参加者	1,461人
・ハイビジョン上映	実施回数	28回	参加者	257人
・団体レクチャー	実施回数	18回	参加者	508人

イ 尾瀬沼ビジターセンター

・自然観察会	実施回数	106回	参加者	843人
・スライドショー	実施回数	88回	参加者	2,489人
・マルチスライド上映	実施回数	895回	参加者	8,734人

(3) 指導者養成事業

新規職員等導入研修

職員の資質向上と円滑な業務運営を図るため、新規職員等を対象に、国立公園制度や尾瀬の概況等の研修を実施した。

5月9日～10日 国立赤城青少年交流の家

救急法研修

尾瀬での傷病者対応に必要な救急の知識・技術を習得するため、MFA(マイック・ファースト・エイド)の基礎コースを受講した。5月29日 尾瀬山の鼻ビジターセンター
また、利根沼田広域圏東消防署から講師を迎え、心肺蘇生法及びAEDの取扱いを

習得した。 10月 2日 尾瀬山の鼻ビジターセンター
指導者の養成

自然解説活動の充実を図るため自然解説指導者研修（主催 環境省）に職員を派遣した。

(4) 啓発PR事業

事務局情報誌「尾瀬通信」の発行 年4回

第8回「尾瀬フォーラム」の開催

尾瀬の自然や財団活動に対する一般の人々の理解を深めるために開催した。

- ・開催日 12月22日
- ・開催場所 高崎シティギャラリー・コアホール
- ・内容 講演「アジアのクマ、尾瀬のツキノワグマ」

尾瀬保護財団事務局 研究員 橋本幸彦

- ・参加人員 150名

第11回NHK「わたしの尾瀬」フォトコンテスト及び写真展の開催

福島、前橋、新潟の各NHK放送局と共催し、尾瀬の「自然」、「動植物」、「人物」、「保護」をテーマとしたフォトコンテストを実施するとともに、入選作品や財団パネルの展示、スライドレクチャーを内容とした写真展を各地で開催し、尾瀬の自然保護について普及啓発した。

- ・コンテスト 応募作品数 868点 入選数 50点
- ・写真展 12月22日～12月27日（群馬県）高崎シティギャラリー
1月10日～1月16日（群馬県）県庁県民ホール
2月7日～2月13日（福島県）うすい百貨店
3月13日～3月27日（新潟県）柏崎ソフィアセンター

啓発パンフレットの配布

利用マナーの向上、尾瀬の案内、自然解説等に資するため、セルフガイドなどを配布したほか、尾瀬地域交通対策パンフレット（60,600部）を作成して、関係機関や一般に配布した。

各種イベントにおける尾瀬保護と適正利用の啓発

尾瀬の保護と適正利用について一般の人々の理解を深めるため、関係機関が開催する各種イベント等の会場内に「尾瀬コーナー」を設け、利用マナーの向上と平日利用、入山口分散化等の呼びかけを行った。

- ・第8回ぐんま環境・森林フェスティバル 10月15日 群馬県庁
- ・写真家新井幸人氏のスライド&トーク「尾瀬の集い」
4月29日 東京都
- ・ぐんまNPOフェスティバル 6月30日～7月1日 群馬県庁

2 環境保全事業

(1) 植生復元事業

環境省、福島県及び群馬県からの委託により、入山者の踏み込み等により植生が荒廃又は裸地化した湿原の植生を復元・保護する作業を実施した。

- ・尾瀬沼地区及び尾瀬ヶ原地区の保護柵設置等
- ・至仏山東面登山道沿いの踏み込み防止柵設置等
- ・横田代植生復元作業

- ・沼尻植生復元作業
 - ・見晴植生復元作業
 - ・小淵沢田代植生復元作業
- (2) 至仏山保全対策
- ・至仏山保全緊急対策会議
登山道周辺の植生の荒廃が深刻な状況となっている至仏山について、関係機関と有識者による会議を開催して、植生保護と利用の適正化に向けた対策の検討を行った。
 - ・至仏山気象観測業務
至仏山保全対策に資するため、至仏山の気象に関する基礎データを収集した。
- (3) 山ノ鼻地区気象観測
- 山ノ鼻地区に気象観測装置を設置し、データを収集、整理した。

3 施設管理事業

(1) 施設維持管理事業

ビジターセンターの管理運営等

ア 環境省尾瀬沼ビジターセンターの管理運営

開館期間 5月15日～10月23日 162日間

イ 群馬県尾瀬山の鼻ビジターセンター管理運営等

開館期間 5月14日～10月23日 163日間

公衆トイレの維持管理

ア 尾瀬沼地区公衆便所（環境省設置）清掃等

イ 群馬県尾瀬地区山の鼻・竜宮公衆トイレ（群馬県設置）維持管理・清掃等

(2) 利用者対策事業

尾瀬沼及び尾瀬山の鼻の両ビジターセンター内に危険箇所などの掲示を行った。

4 調査研究事業

国立公園利用適正化推進事業

環境省からの委託により、尾瀬の貴重で繊細な自然環境を将来にわたり保全していくために、平成18年度抽出した課題について以下の事業を行った。

(1) 尾瀬地域の運営基本方針の策定～尾瀬の今後のあり方の検討～

「尾瀬の保護と利用のあり方検討会」の設置・開催

ア 4月25日 第1回検討会

・尾瀬の保護と利用の現状とその評価について

イ 7月7日 第2回検討会

・第1回検討会の検討結果について

・尾瀬の保護と利用に関するビジョン（骨子）案について

ウ 11月10日 第3回検討会

・第2回検討会の検討結果について

・尾瀬の保護と利用に関するビジョンについて

「尾瀬ビジョン」の提言

21世紀の新しい国立公園としての尾瀬のあり方について議論を重ねた成果を、全国28の国立公園に先駆けて「尾瀬ビジョン」としてとりまとめ、環境省に公園計画の変更等

に反映させるよう提言した。(1 1月3 0日)

(2) 利用調整試験調査

試験調査

「尾瀬地域利用適正化手法検討会」及び「同幹事会」を各1回開催し、利用調整手法について検討した次の項目について、試験調査した。

ア 情報提供による、快適で豊かな自然体験の促進

比較的利用の少ない8月の植物開花情報、気候情報、環境学習ポイントなどの情報をウェブサイトで提供し、また6, 7, 10月には特定混雑日、混雑コース、お勧めコースなどの情報提供をチラシにより入山口で行い、それぞれ混雑回避、休憩場所の調整を促し、効果を検証した。

イ 尾瀬の自然ガイド利用促進のためのモニターツアー

1グループの人数規模を分けて、同じコースを自然ガイド付きでモニターツアーを行い、ツアー参加者、自然ガイド、一般登山者により、最適な人数規模と参加料金の組み合わせについて評価・検証を行った。

普及啓発

入山口及びイベントなどにおいて、リーフレット等により分散利用などの啓発を行った。現地情報(自然・歩道状況等)をFAX及びメールにより、山小屋、観光協会、登山用品店などに対して配信した。

(3) 安全対策推進

ア ツキノワグマの危険回避対策

「尾瀬山ノ鼻地区ツキノワグマ対策会議」を2回開催し、危機回避マニュアルを運用し、関係者の役割分担を行うとともに、クマ対策全般の協力を呼びかけた。

7月下旬から8月下旬には財団研究員が山ノ鼻に常駐し、巡回、追い払い、学習放獣などの対策を実施した。

ヨシッ堀田代での遭遇事故の再発防止のため、「尾瀬ヨシッ堀田代地区ツキノワグマ対策連絡会議」を1回開催し対策を検討するとともに、6月上・中旬に財団職員が同湿原に常駐し、巡回を行った。

また、利用者向けのクマ注意リーフレットを継続して配布した。

さらに、クマ目撃情報を収集分析し、山小屋、観光協会、登山用品店などにFAX及びメール配信した。

イ ツキノワグマ生息状況調査の実施

学習放獣されたツキノワグマのテレメトリー調査を行うとともに、尾瀬地域でのツキノワグマ生息状況を把握するために、生息密度調査、ヘアトラップ調査、痕跡調査、食物資源量調査を実施した。

(4) 尾瀬ガイドンスの実施

利用者のマナー向上や利用の分散化を図るため、環境省等関係機関・団体と連携して、旅行会社や出版社等を対象としたガイドンスを開催し、尾瀬の現状と適切な利用方法を説明するとともに、協力を呼びかけた。

・東京都内 12月1日 (社)日本旅行業協会研修室 26社50名参加

5 顕彰事業

湿原を対象とした学術研究の進展を図ることを目的として、第10回尾瀬賞の募集と選考を行

った。

尾瀬賞選考委員会

- ・ 12月 3日 第10回尾瀬賞選考基準・方法等について
- ・ 1月 28日 第10回尾瀬賞受賞候補者の選考について

尾瀬賞運営委員会

- ・ 11月 19日 辞任に伴う後任委員の選任ほかについて
- ・ 3月 10日 第10回受賞者候補者決定及び第11回尾瀬賞の募集について

受賞者 九州大学大学院理学研究院
教授 赤木^{たすく} 右 氏

受賞研究テーマ 「湿原の化学的特徴を用いた地球環境指標の開発と応用」

6 友の会事業

各種イベントや財団ホームページを通じて会員募集を行うとともに、関係機関や団体に対する加入促進を行った。

会員に対しては、定期に会報を発行し、尾瀬に関する各種情報の提供を行った。

・平成14年度	賛助会員17社	個人会員1,475人
・平成15年度	賛助会員20社	個人会員1,617人
・平成16年度	賛助会員19社	個人会員1,615人
・平成17年度	賛助会員28社	個人会員1,646人
・平成18年度	賛助会員38社	個人会員1,453人

7 財団の運営

財団の適正かつ円滑な運営を図るため、理事会及び評議員会のほか、尾瀬サミット、企画運営委員会等を開催し、尾瀬及び財団に関する諸課題について意見交換等を行った。

(1) 理事会、評議員会の開催

理事会

ア 第23回理事会

- ・日 時 6月26日 午後1時30分～2時40分
- ・会 場 全国町村会館（東京都）ホールA
- ・議 事（議案）
 - 1 平成17年度事業報告について
 - 2 平成17年度決算について
 - 3 基本財産への繰り入れ及び管理について
 - 4 評議員の辞任に伴う後任評議員の選任について
 - 5 尾瀬賞運営委員会委員の選任について

イ 第24回理事会

- ・日 時 3月26日 午後3時～4時
- ・会 場 都道府県会館（東京都）401会議室
- ・議 事（議案）
 - 1 副理事長の選任について
 - 2 次期における理事長、副理事長及び常務理事の選任について

- 3 評議員の辞任に伴う後任評議員の選任について
- 4 平成18年度収支予算の変更について
- 5 平成19年度事業計画について
- 6 平成19年度収支予算について
- 7 財務規定の一部改正について

評議員会

ア 第23回評議員会

- ・日 時 6月26日 午前10時30分～11時50分
- ・会 場 全国町村会館（東京都）ホールA
- ・議 事（議案）
 - 1 平成17年度事業報告について
 - 2 平成17年度決算について
 - 3 基本財産への繰り入れ及び管理について

イ 第24回評議員会

- ・日 時 3月26日 午後1時00分～2時20分
- ・会 場 都道府県会館（東京都）401会議室
- ・議 事（議案）
 - 1 平成18年度収支予算の変更について
 - 2 平成19年度事業計画について
 - 3 平成19年度収支予算について
 - 4 理事の辞任に伴う後任理事の選任について
 - 5 役員の任期満了に伴う改選について
 - 6 財務規定の一部改正について

(2) 尾瀬サミット2006の開催

- ・日 時 8月24日、25日
- ・会 場 福島県檜枝岐村尾瀬沼地区
- ・テーマ 「21世紀の新しい国立公園を考える」

(3) 企画運営委員会の開催

第10回企画運営委員会

- ・日 時 12月27日 午後1時30分～3時
- ・会 場 都道府県会館（東京都）404会議室
- ・議 事
 - 1 尾瀬保護財団への寄付に関する指針について
 - 2 その他

(4) 尾瀬地域関係者連絡会議の開催

平成18年度第1回会議

- ・日 時 5月16日 午後1時20分～3時50分
- ・会 場 オフィス東京（東京都）S会議室
- ・議 事
 - 1 尾瀬地域関係者連絡会議設置要綱の改正について
 - 2 平成18年度の主要事業等について
 - 3 当面の課題、懸案事項等について

平成18年度臨時会

- ・日 時 8月 9日 午後1時30分～午後3時30分
- ・会 場 関東地方環境事務所会議室
- ・議 事
 - 1 尾瀬のごみ問題について
 - 2 尾瀬の安全対策について

平成18年度第2回会議

- ・日 時 12月27日 午前10時～12時
- ・会 場 都道府県会館（東京都）404会議室
- ・議 事
 - 1 平成18年度の主要事業の実施状況について
 - 2 平成19年度に予定している事業等について
 - 3 過去のごみ問題への対応状況について

(5) 寄付金の募集

尾瀬の環境保全に役立てるため、並びに財政基盤の強化を図るため、特定公益増進法人の認定制度を活用し、財団への寄付を幅広く募った。

また、尾瀬保護財団企画運営委員会（平成18年12月27日）において、「尾瀬ビジョン」の基本方針に沿った寄付の取扱いを進めるため、寄付に関する指針について検討した。

8 物品の販売（特別会計）

財団事業の財源確保と自然環境保全の重要性をPRするため、尾瀬山の鼻及び尾瀬沼両ビジターセンターを中心に尾瀬に関する書籍、地図及び絵はがき等の販売を行ったほか、「わたしの尾瀬」フォトコンテスト入選作品を活用した卓上カレンダーや、群馬県作成の自然環境カレンダーなどの販売を行った。

9 要望活動

平成18年6月26日群馬県小寺知事、福島県佐藤知事、新潟県泉田知事が、尾瀬国立公園の実現に向けて、環境大臣に対する要望活動を行った。